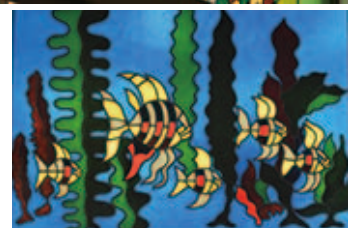




【女湯】割りタイルの精密さに思わず見惚れる。

アートな麻布に魅せられて⑬ 麻布黒美水温泉“竹の湯”の タイル壁画、再発見！

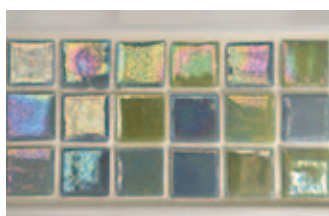
開業106年の竹の湯は平成14年(2002)に温泉の認可をとり、
現在では「麻布黒美水温泉 竹の湯(以下竹の湯と表記)」
として営業中だ。お湯の美肌効果とともに、浴室内のタイル壁画
やステンドグラスでも多くの人を魅了している。あらためて
アートの観点から訪ねてみた。



脱衣室との境のステンドグラス。平成23年(2011)のリフォーム時に男湯と女湯で逆にしたのを、おなじみの皆さんご存知でしょうか！？今はお城の方が女湯です。



【男湯】麻布地区の銭湯は竹の湯だけ。店名の通り、黒いお湯が特徴。



透明感のあるガラスモザイクタイル、特注の御影石のプレートにも、ぜひ注目。

銭湯の壁画といえば富士山などのペンキ絵を想像するが、竹の湯の壁画は、男湯が帆をいっぱい張り大海を進む日本丸、女湯が県庁所在地を赤くマーキングした日本地図。とてもダイナミックで印象深いものだ。しかもペンキではなくモザイクタイルを使用。そばに寄って見ると、タイルを割った破片を組み合わせた非常に精緻なデザインであることに驚く。昭和63年(1988)に建て替えた際、二代目店主のアイデアにより制作されたものだという。

ペンキ絵は定期的に塗り替えが必要になる。昔は銭湯の絵師のような人がいたが、銭湯の減少に伴い絵師も減っている事情を踏まえ、メンテナンスを考えてペンキ絵にはしなかったらしい。とはいえ、この割りタイルもペンキ絵と同じくらい貴重なものではないだろうか。ふと、スペイン、バルセロナのアントニオ・ガウディの建物や公園にも、割りタイルを多用していたことを思い出した。

また絵柄については、女湯の日本地図は、親子で県名、県庁所在地あてクイズをするなど遊びながら勉強したり、お客同士が出身地や旅先について話題にしたりと、楽しく会話することを願ってのものだという。男湯の絵は当初良い

アイデアが浮かばず、ふと、幼い姉妹が小学校で使用していた下書きの絵を採用したとのこと。なんとも微笑ましいエピソードだ。

時は移り平成に。三代目店主となった姉妹の妹は、内装リフォームを実施した。コンセプトは壁画を生かし、より多くの方に愛されるよう、現代なお洒落なスペースとすること。姉と相談しながら、イタリア製の地紋入りのタイルやガラスモザイクタイルを選び、御影石に文字を彫り込んだプレートの特注。以前からあった、浴室の出入り口上の熱帯魚やヨーロッパの城をモチーフにしたステンドグラスも健在だ。女性ならではのセンスにあふれ、家にお風呂があっても時には行ってみたいくなる、そんな雰囲気なのである。実際のところ、遠方からのお客、また外国人も多く、平日は200人、土日・祝祭日ともなれば300～400人の来場者があるという。

皆さんも、ミネラルたっぷりのお湯につかりながらタイルを眺めて癒されてはいかがでしょうか。

●取材協力 ●
麻布黒美水温泉 竹の湯 樋口浩司さん、美和さん
東京都港区南麻布1-15-12
電話:03-3453-1446 <http://azabukokubisui.o.o07.jp/>
営業時間:15:30～23:30 (23:00にシャッターが閉まります)
定休日:月・金曜日(祝日問わず)



入口の下駄箱と脱衣室のロッカーは兼用で、下駄箱の空きが無くなったら満員、とお客にわかりやすいようにしてある。

(取材・文／田中亜紀、中嶋恵)



麻布びと

未来へ残したい麻布の声



公益社団法人 国際日本語普及協会 会長
西尾圭子さん（85歳）



兄、團伊玖磨さんと(1986年)。

麻布で育ち、外国人と接する環境で、日本語の大切さを学んだ

今回登場する西尾圭子さんの兄上は「ぞうさん」の童謡をはじめ、クラシック、オペラなどの作曲家であり、『パイプのけむり』のエッセイストとして有名な團伊玖磨さん。父 團伊能氏は東京帝国大学文学部美術史学科助教授、参議院議員、プリンス自動車社長、九州朝日放送会長を歴任した実業家であり政治家。母 美智子さんはドイツ公使館書記、シドニー総領事、宮内省大膳頭を務めた上野季三郎氏の五女という日本を代表するお家柄である。圭子さんはその両親の元、幼稚園から大学まで学習院に学び、同学年には天皇陛下、オノヨーコさんがいらっしゃる。これまでの華麗な人生を語られると思いきや、圭子さんご本人が地に足をつけ、自分で決めて歩いてこられた道を語り始め、一気に吸い込まれていった。

原宿と麻布材木町での思い出

西尾圭子さんは、昭和中期、日本を代表する大実業家、團伊能氏(明治25年(1892)～昭和48年(1973))の次女として、現在の原宿、東京府豊多摩郡千駄ヶ谷村字原宿で生まれた。その年、昭和7年(1932)は、團家にとっては悲劇の年でもあった。祖父で三井財閥の総指導者である團琢磨氏(安政5年(1858)～昭和7年(1932))が、血盟団員の凶弾に倒れたのだ。そんな中、7歳上の兄、伊玖磨さん(大正13年(1924)～平成13年(2001))と姉の3人兄弟の末っ子として、家中から可愛がられて育った。

学習院幼稚園時、住んでいたのは、原宿の広大な屋敷。「毎日、代々木練兵場に訓練で通う、兵隊さんたちの通り道だったんです。『勝って～来るぞと勇ましく～』、兄と姉は塀をよじ登って、歌いながらの行進を眺めていましたね。私は誰かに肩車してもらわないと見られませんでした。」「砂ぼこりと軍靴の行進の音、そして軍歌。圭子さんにとっての幼少期の思い出である。今でも10曲以上の軍歌はそらで歌えると、笑う。

原宿の屋敷内を分断するように明治通りが走っていたため、昭和14年(1939)、圭子さんが学習院初等科に入学すると、麻布材木町(現:六本木6丁目)に引っ越すことに。父、伊能氏の幅広い人脈からであろう、6階建ての大きな家は、実は瑞典(スウェーデン)公使館でもあった。やがて戦争の波が押し寄せ始め、兄の伊玖磨さんは、学徒動員で陸軍戸山学校軍楽隊に入隊、姉は九州へと嫁いで行った。月に1回の伊玖磨さんとの面会日には、母と連れ立って麻布材木町から戸山まで、歩いて弁当を届けていた。いただきもののカステラの大きな木箱にあふれんばかりのおにぎりとおかずを詰めて。兄の同僚に、同じく東京音楽学校(現:東京芸術大学)で学んでいた芥川也寸志さん(大正14年(1925)～昭和64年(1989))も一緒に、「むさぼる様に食べる2人の姿を見て、若い兵隊さんにひもじい思いをさせているなんてと、母は帰り道泣いていました。」と振り返る。

昭和20年5月25日の大空襲で全てを失う

その日、B29の爆音が聞こえる中、圭子さんと両親は、数人のお手伝いさんと共に、麻布材木町自宅庭の防空壕に身を寄せていた。自宅が燃え上がり、六角の焼夷弾の筒が芝生の庭に散らばっていた。「とにかく青山墓地に逃げなさい」、父の言葉で母と避難したことを、昨日のことのように覚えている。「墓地下の道は人で溢れて、空襲で墓石はひっくり返り、騎兵隊の馬のいななきと人々の叫ぶ声と、頭上に焼けたトタンが舞っていて、そして死体もたくさんあって、地獄絵のようでした。」

全焼した家を取り、祖父の團琢磨氏が別荘として建てた箱根の家(現:箱根ハイランドホテル)で終戦を迎える。だが、そこも海軍の将校宅にと接收され、自分の布団を背負い、今度は葉山の別荘へと移り住んだ。終戦後しばらくは、逗子駅まで自転車を飛ばし、文京区にある護国寺境内の仮校舎まで片道2時間半かけての通学を余儀なくされた。やがて東京に戻り、数回の転居を繰り返した後、最後に落ち着いた家は、かつての麻布材木町の家からも近い麻布西町(現:元麻布1丁目)となった。

社会人としてのスタートは国際文化会館

圭子さんの母 美智子さんは、父の上野季三郎氏が、サンフラ



(右)小さい頃からぬいぐるみが大好き。今のお気に入りはいはベルギーで買ってきた子ヤギちゃん。
(左)港区教育委員会発行 増補港区近代沿革図集麻布・六本木(昭和12年(1937))p94より転載(赤丸は加筆)
1は戦前に住んだ家。2は戦後住んだ家周辺。



圭子さん3歳当時、原宿の家で。左より圭子さん、母美智子さん、父伊能氏、姉朝子さん、兄伊玖磨さん。



圭子さんの生家、原宿の屋敷。中央の白壁の建物は子どものための家だった。右手にさらに美術品を収めた蔵もあった。



麻布材木町の家には暖炉があった。撮影した数ヶ月後、空襲のため全焼した。



気品ある美人で評判だった母、美智子さん。

ンシスコで日本領事を務めた時に生まれた。父 伊能氏は、ハーヴァード、ロンドン、リヨン各大学への留学経験を持つ。夫妻は外国人の友人も多く、来客が絶えない国際色豊かな家庭環境で、圭子さんは育った。

その影響もあり圭子さんが18歳の時、両親は留学を強く勧めてくれた。その気もあって迷ったが、日本語に魅せられていた圭子さんは、学習院大学文学部国語国文学科で学ぶことを選んだ。20歳前に嫁いだ姉の姿を見ながら、反対に社会に出て働きたいという意欲があった。

家から大学までの通学コースは、麻布の暗闇坂を下り、鳥居坂を上り、都電を利用する。大学4年時、鳥居坂沿いに国際文化会館が建設中だった。求人募集の張り紙を見て、迷わず応募した。外国と日本を結ぶ面白そうな機関だと思ったからだ。

昭和30年(1955)、大学院での研究の道も頭によぎったが、やはり働いてみようかと決意し、国際文化会館のオープンと同時に勤務。「外国の学者と日本の学者の交流のお手伝いが、私の仕事でした。相互のやりとりに追いつけ、追い越せで、毎日大変でしたが、とても充実していましたね。」

ライフワーク 国際日本語普及協会設立へ

勤務中、来日する日本を研究する学者たちの日本語に触れることで、日本語教育の研究にも没頭するようになった。結婚を機に国際文化会館は去ったが、昭和45年(1970)、日本語教育研究会西尾グループを立ち上げる。国文学を専攻した圭子さんの本領発揮、ライフワークの足がかりが築き上げられていく。2人の子どもを育てながらも、日本語教育の研究と活動を続けた。東海大学の非常勤講師として留学生への日本語教育にも力を注ぎ、現在の公益社団法人 国際日本語普及協会が形成されていった。その間、世界中を飛び回り、世界の難民問題解決の協力、日本語教育を実施出来る日本語教師の養成、来日して日本駐在となる外国人社員、技術研修生、さらに難民、日系人労働者などにも日本語教育を進めていった。

その功績が認められ、平成14年(2002)には港区長から社会教育功労者として表彰されている。同年、勲三等瑞宝章受章。現在も、国際日本語普及協会会長として、講演活動が続けている。

自分で考え、そして行動していく。圭子さんの人生に学ぶことがとても多いインタビューでした。幼少期から現在まで、事細かく話される記憶力抜群の圭子さんの話に感服しながら、刺激をたくさん受けたひと時でした。



国際文化会館時代の圭子さん。

公益社団法人 国際日本語普及協会
http://www.ajalt.org

(取材・文／高柳由紀子)

編集委員が行く！

あざぶ
食述記

1

食べて学べる美味しい図書館！？

～東京都立中央図書館『有栖川食堂』『有栖川珈琲』～

『図書館の食堂』という、どういうイメージがあるだろうか。

狭い、混んでいる、メニューが少ない…？

「図書館は本を読みに行ったり、資料を探したり、勉強をするための場所だから、食事は二の次」という人も多いかもしれない。

そんなイメージを覆す食堂が南麻布の有栖川宮記念公園内の東京都立中央図書館にできたと聞き、早速行ってみた。



眺めの良い窓際、集まって勉強できるテーブル席

5階にある食堂は、2017年10月に『有栖川食堂』としてリニューアルオープンした。全135席の広い空間に、六本木ヒルズ・東京タワーなど港区の景色が見渡せる大きな窓があり、明るくてとても開放的だ。また、公園の木々も季節ごとに色を添える。

ご馳走わんさか！食べてよし、知ってよしのメニュー

メニューはしっかりお腹を満たせる定食や、時間がなくてもさっと食べられる麺類などが並ぶ。食堂イチ押しは「宇佐から揚げ定食」だ。から揚げ発祥の地、大分県北部・宇佐名物のから揚げは、下味がしっかりしていて熱々で香ばしい。ボリュームもたっぷり、図書館のスタッフからも大人気だ。「有栖川鶏らーめん」は、厨房で鶏の胸肉ともも肉から出汁を取るほどこだわっており、澄んだスープが優しく体に染み渡る。また、食堂の名前を冠した「有栖川和定食」「有栖川洋定食」も、季節の食材を酒蒸しやコンフィ(肉を肉の脂で煮た料理)にして、一品一品丁寧に調理している。

中でも目を引くのが月替りの「日本のご当地料理」と「世界各国の料理」だ。「日本のご当地料理」は日本各地の食文化を知ってほしいとの思いから、これまでに北海道のジンギスカン、青森のバラ焼きなどを提供。また「世界各国の料理」では麻布には多くの大使館があることにちなみ、世界各国の接点として名物料理を紹介している。2017年11月に日本初となるカザフスタン共和国国立図書館との図書の交換があり、展示と合わせて郷土料理のクイルダク(トマト煮込み)が登場した。こちらのクイルダクは一見シチューのように見えるが、牛肉と一緒にレバーやモツがやわらかく煮込んであり、トマトの酸味が効いていて、ご飯にも合う。他にもオーストリアやフィンランドなどの名物料理も紹介した。日頃なかなか食べることができない国の料理を図書館で楽しめるのもまた魅力的だ。

緑と本格カフェでほっと一息

2017年12月には1階入口にカフェ『有栖川珈琲』もオープンした。カフェ専用にとろけさせた炭焼きのコーヒー豆を使い、エスプレッソ方式で1杯ずつ丁寧に淹れるコーヒーは、やや濃い目でウィーン風だ。珍しいオーストリア産のぶどうジュースやエルダーフラワーのソーダ割りも頂ける。ショーケー



晴れた日は陽ざしがたっぷり降り注ぐカフェ



春には新緑、秋には紅葉が広がる

図書館の「食堂」だからできること

このような図書館らしからぬ食堂は一体どのようにして生まれたのだろうか？食堂を運営する吉田明俊さんにお話を聞いた。

「お店を出す場所を探していたときに『図書館の食堂』のお話を聞いて、とても興味深いと思いました。図書館は1日に800～1000人が訪れ、知識・情報を仕入れる場です。食でも情報発信をしてみたいと思いました。食に関する面白いような提案をするために名物料理やレシピを調べたり、料理人としての知識も増やすきっかけにもなっています。図書館ならではのネットワークを活かして、より多くの食文化も紹介できたらと考えています。図書館のイベントとの連動企画や料理教室などもやってみたいですね。また、麻布・広尾はコーヒーショップも多く、色々なコーヒーが楽しめるエリアです。気軽に立ち寄ってゆっくりできる場所として、『有栖川珈琲』からもカフェ文化を広めていきたいです。

今後は、ドイツ料理のお店で働いていたときの経験を活かして、天然酵母を使ったトーストなど、麻布のご当地メニュー作りにもチャレンジしたいと思っています。」と笑顔で語ってくれた吉田さん。

これからさらに食文化を発信していく「美味しい図書館」。みなさんも是非足を運んで楽しんでいただきたい。

●『有栖川食堂』(5F)『有栖川珈琲』(1F)

東京都港区南麻布5-7-13 東京都立中央図書館内 電話:03-3441-8770

営業時間:有栖川食堂 11:00～17:00

有栖川珈琲 10:00～19:00 (土日祝日は10:00～17:00)

(定休日は図書館閉館日と同じ)



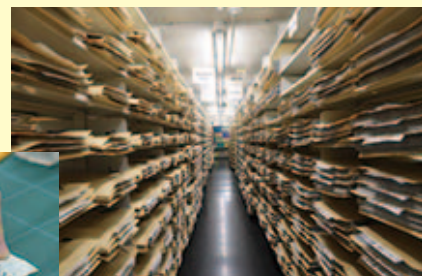
食へのチャレンジ精神があふれる吉田さん

東京都立中央図書館



蔵書は約202万冊。公立図書館としては最大級の蔵書数を誇り、都立日比谷図書館から継承された江戸・東京の貴重資料なども有している。また、図書館内で本の修復を行なっているのは国立国会図書館と当図書館内のみである。図書館では本に関する質問(レファレンスサービス)も随時受け付けており、資料を探したり、調べものをするときは是非ご利用頂きたい。また、様々な企画展示、講演会も実施しており、普段は入れない書庫などを案内するバックヤードツアーも定期的開催され人気となっている。

イベントはこちらを参照

東京都立図書館 HP <http://www.library.metro.tokyo.jp>上:地下の書庫にはびっくりする程の資料が
左:江戸時代の本に和紙を貼って修復



フランシス・マリウル・マツタロウ特命全権大使
Francis Mariur MATSUTARO

パラオ共和国

面積:488平方キロメートル(屋久島とほぼ同じ)

人口:21,291人(2015年、世界銀行)

首都:マルキョク(2006年10月、コロールより遷都)

元首:トミー・E・レメンゲサウ・Jr. (Tommy E. REMENGESAU, Jr.)大統領
(2017年1月就任、任期4年)

議会:二院制(上院13名、下院16名)、任期4年

参考:外務省ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/palau/index.html>

取材協力/パラオ共和国大使館

大使を訪ねて 43

麻布の"世界"から



PALAU

昨年東麻布に移転してきたニューフェース。
日本とは100年前から現在に到るまで
密接なつながりがある。

パラオで採れる珊瑚や貝を使ったネックレスを付けて現れた大使。
「麻布に移って夫婦で一番最初に手にしたのが『ザ・AZABU』紙。地域の
情報が満載でとても役に立っている。」の第一声でインタビューが
始まった。



①大使館の外観



②天地創造の神ウアブ像
(2005年愛知万博出展)



③パイと呼ばれる集会所



④集会所に集まる人々

新大使館と日本の印象

2017年8月に東麻布に移転してきた新大使館。麻布は大使館もお店も多く、政治的にも東京の中心で国際色が豊かなのが移転先となった理由だという。

まずは日本の印象を訊くと、「日本人の几帳面さには当初戸惑った。パラオでは、出航の時間を太陽の高さで決めていても、ゆっくりと満ち引きする潮の影響もあり、船を出すのを急がず、遅れてくる人を待つ。日本では分刻みで電車の発車時刻が守られているのと対照的だ。」と時間に関する観念の違いに言及した。

パラオと日本の食

パラオは1915年から1945年までの30年間日本の統治下にあり、日本の文化や食材は、国民に親しみを持って受け入れられ、うどんや煮つけなどは今や各家庭で作られている。魚介類が豊富で、刺身も食べる。パラオにいた当時、大使は刺身にはレモン汁をかけていたが、日本にきた今はワサビがないと物足りなくなったらしい。



⑦パラオの首都マルキョクの国会議事堂

日本でパラオ料理が食べられるのは千葉県の幕張本郷にある『どらごん亭』。パラオにある店の姉妹店で、一番のお勧めはココナッツミルクで煮込んだクラムチャウダー。パラオではクラムチャウダーは各家庭独自の味があるとのこと。「是非、どらごん亭の味を賞味してみて。」と大使。

パラオ化された日本語

日本語がパラオ語に多く取り入れられているのはよく知られているが、パラオ風に変化している言葉もあり、「乾杯」はそのいい例だと紹介してくれた。乾杯の際、「おつかれなおす」と言ってグラスを上げ、「しょとつ」と言いながらグラスを合わせるのだ。「お疲れ様」「(グラスとグラスの)衝突」という日本語がパラオ化したのだという。

環境保護への取り組み

パラオの主要な産業は水産業と観光業の2つ。それらを持続可能にするため、環境保護への取り組みを強化している。2017年12月から、環境を次の世代に残す「レガシーキャンペーン」の一環として、観光保護誓約「パラオ・ブレッジ」を開始した。入国する旅行者すべてに対し、責任ある観光を義務づける誓約への署名を求めるものだ。未来のために入国手続きを変更した取り組みとして、世界初の事例だ。そのコンセプトや誓約の内容を説明している動画があり、「ネット上でも見られる(注)」。できるだけ多くの人に見てもらい、賛同したら誓約書に署名してほしい。」と大使は熱心に語った。

日本の経済協力

日本は政府開発援助を通してパラオのインフラ整備、海上保安能力強化および環境配慮型ツーリズムの推進に貢献している。2017年9月に広島県呉市において日本財団が無償供与した40メートル型巡視船の進水式及び命名式が行われ、レメンゲサウ大統領夫妻、大使、日本で研修中の巡視船乗組員の幹部候補生等が出席した。巡視船は、勇敢に広大な排他的経済水域を守っていくようにとの思いを込め、軍艦鳥の意味のパラオ語「KEDAM(ケダム)」号と名付けられた。

一度は訪れたいペリリュー島

大使のお勧めの観光スポットは、大使の出身地でもあるペリリュー島。島の周りにはダイビングスポットが豊富で、島に滞在して各スポットに日替わりで出かけることが出来る。また、この島には、第二次世界大戦の戦車や大砲など、戦争の生々しい痕跡が数多く残っている。2015年4月9日に、天皇・皇后両陛下が慰霊のためパラオのペリリュー島を訪問されていて、それを記念し、4月9日はペリリュー州の祝日として法律で制定された。大使は「戦争の記憶は薄れていくので、特に若い世代に来て欲しい、日本からわずか4時間半で行けるのだから。」とインタビューを締めくくった。

インタビューに行った者全員がパラオの美しい自然を守っていくことに賛同し、観光保護誓約書に署名した。大使は最後に、「『ザ・AZABU』がボランティアの協力で

作成されているのは素晴らしい」と。本紙を気に入っていることが伝わってきて、光栄だった。

(注) <https://palaupledge.com/>
大使館HP <https://palauembassy.or.jp/>



⑤入国時にパスポートに押される「パラオ誓約」



⑥パラオ料理に豊富に使われる魚介類など



⑧世界でも有数の生物多様性を有するパラオ珊瑚礁。
パラオには約385種類のサンゴが確認されている



⑨南ラグーンのロックアイランド群(UNESCO世界複合遺産)



⑩パラオの旧首都コロール島とバベルダオブ島を結ぶ
日本・パラオ友好の橋



⑪ジャングルの奥地にあるパラオで一番大きなガラスマオの滝

写真提供: ④、⑪ パラオ政府観光局 ①、③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩ パラオ共和国大使館 (取材/米沢恵美、西森瑞穂 文/米沢恵美)



昭和50(1975)年:薬園坂 坂上から
写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏

麻布の最南端

現在は閑静な住宅街で、坂下には古川、明治通りと首都高(2号目黒線)が横たわっている。この古川が現在の麻布地区の南端(境界線)となる。明治通りを挟んで四之橋が架かり、隣接する高輪地区へと続く。

坂名の由来

道標によれば「江戸時代前期、坂上の西部に幕府の御薬園(おやくえん)(薬草栽培所・小石川植物園の前身)があった。なまって役人坂・役員坂と呼ぶ」とある。麻布台地の最南端に位置し、その起伏と南向きであったことから、

薬園に向いていると判断されたのだろう。現在も名残りともいべき「薬園坂緑地(南麻布3丁目11)」がある。この御薬園、調べてみると元々は江戸城にあった「御花畑」を移設し、様々な薬草を栽培するようになり、「御薬園」と相成った。江戸時代前期とは延宝年間(1673~1681年)を指すようだ。その後貞享元(1684)年に小石川の白山御殿跡へ移転。これが現在の小石川植物園(現在の正式名称:東京大学大学院理学系研究科附属植物園・東京都文京区白山)の前身となる。



平成29(2017)年:現在は両側にマンションが建ち、右側に歩道が敷設されたせいか、幾分道幅が狭くなったようにも見える。

麻布御殿

「御薬園」移転後に建てられた5代将軍・徳川綱吉の別邸の名称である。他にも呼び名があり、地名から「白金(白銀)御殿」や富士山がよく見えたことから「富士見御殿」とも言われていた。元禄10(1697)年にこの御殿を建設するにあたり古川の改修工事をする事となり、普請のための人足場を一番組から順に設けていった。ザ・AZABU27号「一之橋・二之橋」でも少し触れた内容だが、この人足場の名残りを町名としている場所が「麻布十番」である。余談ではあるが、同じ27号の「麻布びと」の項にこの薬園坂付近が「六番組」であったであろう立て看板が掲載されている。

麻布御殿は大規模な工事でありながら、翌年の元禄11(1698)年に完成したといわれる。

その後宝永5(1708)年に四谷(当時の新宿・内藤宿)からの出火により焼失。当時は火事の規模も非常に大きかったことを物語っている。(※焼失の時期には異説もある)

綱吉が訪れたのはわずか2回で、2回目に訪れる少し前に赤穂事件(俗に言う「忠臣蔵」)が発生している。



狐しるこ

薬園坂から脱線するようだが、麻布の境界線を探るうえで大切な四之橋。橋標にもあるが、古い街道筋であったという伝承から、橋が架けられたのは江戸時代よりも前であったようだ。橋名の由来は前述の「麻布御殿」になるのだが、この四之橋にも麻布七不思議がある。

「むかし、四之橋のそばで、尾張屋藤兵衛という者がしるこ屋を商っていた。そこへ時々狐が化けて買いに来たのでそれが評判となり、大いに繁盛した。」という伝説だ。狐が化けて買いに来るほど「美味しい」ということだろう。古地図にも店名が記されている。

尾張屋は後に京橋三十間堀(現在の銀座2・3丁目周辺)へ移転した。とても儲かったので移転した、というところだろうか。この伝説、いつの時代のものかは確証が得られなかったが、実は少なからず麻布の名店に関わりがある。

狐うなぎ

写真をご覧ください。現在も東麻布・飯倉にある「五代目 野田岩」の看板である。右側に「狐うなぎ」と書いてある。狐うなぎとは利根川を上り、茨城、千葉周辺に生息している口細の上質な天然鰻のことを指すのだが、もうひとつの意味がある。四之橋にあった「狐しるこ」はその後「狐鰻」という店になり、その様子が歌川広重の「絵本江戸土産『麻布古川、相模殿橋、広尾之原』」に描かれている。

初代野田岩の店主・岩次郎がこの「狐鰻」で修業したことから、2

つの意味を込めて「狐うなぎ」と書かれているのだ。「狐鰻」は明治になっても健在で、維新の三傑・木戸孝允の日記にも登場し、井上馨、伊藤博文と会食した記述が残る。



『絵本江戸土産 第七編』
「麻布古川 相模殿橋 広尾之原」
松亭金水序・歌川広重筆／菊屋幸三郎板 嘉永4年(1851)
絵の左側に見える建物が「狐鰻」。当時としてはかなり大きな店だったのではないだろうか。

話は半分飛んでしまっただが、麻布の南端にも数多くの歴史の声が眠っていたようだ。現在の閑静な佇まいからは想像し得ない事柄がまだ眠っているかもしれない。



平成29(2017)年:広重の絵とほぼ同じアングルでの現在の姿。首都高が覆いかぶさり、川向こうの景色は殆ど見えない。



「四ノ橋」の左側に「狐鰻」の表記がされている(赤丸は加筆)。
「尾張屋板切絵図 白金絵図」 戸松昌訓著／尾張屋清七(金鱗堂)板 嘉永7年(1854)

「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。この事業は、麻布地区の資料収集・保存を通じて、住民の方々にとって身近な歴史・文化的な資料価値を持つ写真を保全・継承し、より一層活用することを目的としています。同時に、まちの歴史や文化をより多くの方々に知っていただき、まちへの愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています。

未来に向けて、残し、伝えていくべき「麻布地区の古い写真」がありましたら、港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当までご連絡ください。

お問合せ 電話:03-5114-8812

地域社会
の
ゆくえ

23

港区と東洋英和女学院との連携事業

「大使館から聞く最新お国事情」の様子をレポートします！～タイ編～



(上) 東洋英和女学院大学
大学院棟
(中) 今回のイベントを
企画されたみなさま
(下) タイのガイドブック

港区と東洋英和女学院(以下、学院)は、生涯学習や国際交流などの分野で協働し、地域社会及び学術研究の発展に寄与するために連携協定を締結しています。その一環として、また、2017年に20周年を迎えた学院生涯学習センターの記念事業として、「大使館から聞く最新お国事情」というイベントが開催されました。地域と大使館との相互交流を通して、異文化を知り、異国の食に触れる、駐日大使館による講演と交流レセプションの企画です。

1回目は、2017年12月15日午後6時から学院で行われました。学院の竹下裕子教授と港区麻布地区総合支所が、日タイ修好130周年にあたる2017年を記念してタイ大使館から講師を招へいして行うことに決めました。

講師のチューチャーイ・チャイウィット公使(講演会当日は臨時代理大使)は、日本とタイの交流が数百年前から始まったこと、当時のタイの首都アユタヤには日本人町が形成されていたこと、中継貿易地としての琉球王国も大きな役割を担っていたことなどに言及され、沖縄の泡盛が現在もタイ米を使って製造されているのはかつてのタイとの交易の名残だと紹介しました。また、両国の関係は、国民から敬愛を集める皇室・王室の親密な関係が基礎にあるとも。

最後に、お互いに貢献しあえる仲になりたい、タイは世界的なサプライチェーンの重要な役割を占めていて、経済分野における日本の重要なパートナーであり、今後も緊密な経済関係を継続していきたいと話していました。熱心に聴講していた人からも、タイの仏教美術は素晴らしくもっと日本に紹介してほしいなどのコメントが寄せられました。



チューチャーイ公使

講演の後の交流レセプションでは、学院の近くにあり学生もよく訪れる、タイ国政府認定のレストランの出張料理が出されました。トムカーガイ(鶏肉のココナッツミルクスープ)はしっかり保温されていたし、ソムタム(青パパイヤサラダ)は水っぽくならないよう直前に混ぜ合わせて提供されていて、細部にまで配慮が行き届いていました。

お土産に、刊行されたばかりのタイのガイドブックも配られ、タイについての興味を掻き立てられました。

今後も大使館との交流事業は継続される予定なので、興味のある方はご参加ください。



竹下裕子先生とタイのチュロンコン大学からの留学生たち



トムカーガイ



ソムタムなど

(取材・文/米沢恵美)



やさしいカーブを描くフラワーポットの愛称は
「スマイリースマイリー」だそうです。



子どもたちの手書きによるプレート



キッズフラワー六本木 「きれいな花をさかせるよ」

昨年12月16日、快晴の土曜日の朝10時。麻布小学校3年生42名の子どもたちがイベント「キッズフラワー六本木」(主催:六本木商店街振興組合)に参加しました。

年に1度、子どもたちの手で21個のフラワーポットに季節の花々が植え込まれ、六本木交差点全体が明るくリフレッシュされるというこの事業は2012年から続けられています。麻布小学校では地域ボランティア学習の一環に位置付けられ、子どもたちは事前に花壇の設計図を描き、掲出す

るプレートの標語やデザインも考えてきました。

そして当日、いよいよ寄せ植えに挑戦です。用意された草花は、デージー、ストック、コニファー、エリカホワイト、キンギョソウなど。設計図の難易度が高すぎることがわかり、泣く泣く(?)修正を加える場面もありましたが、協力しあい、地域の方々に見守られ、集中して作業した結果、予定よりも30分ほど早く完了しました。

大人の皆さん、通りすがりに是非ご鑑賞ください。そして絶対に汚さないでね!



お疲れ様でした。
スタッフの皆さんも
全員で記念撮影。



設計図通りに
出来るかしら?



後日、感想や気づいたことを主催者の皆さんにご報告します。

(取材・文/大村公美子)

事業者マナーアップの輪を一緒に広げませんか？ 「みなとタバコルール宣言」事業者募集中！

港区では、「誰もがまちのルールを守り、たばこを吸う人も吸わない人もともに快適に過ごせるまち」をめざして、特に喫煙者の多くを占める在勤者や仕事で港区を訪れる方々に「みなとタバコルール」を守っていただくため、平成29年4月から「みなとタバコルール宣言登録事業」を新たに開始しました。

「私たち(事業者)は、『みなとタバコルール』の趣旨を理解し、賛同し、ルールを守るため、行動します。」

という事業者様は、港区ホームページより簡単に登録することが出来ます。詳しくは「みなとタバコルール宣言」で検索してください。

ご登録して頂いた場合は、宣言登録証とともに、行動プランに応じた社内啓発用のポスターやステッカー、啓発グッズなどを提供します。また、登録事業者情報は港区ホームページで紹介します。

啓発品例



喫煙場所マップ



宣言事業者ワッペン



宣言登録証

多くの事業者の「みなとタバコルール宣言」により、「港区で働く人は、まちのルールとマナーを守る人」という気運づくりに皆様のご理解とご協力をお願いします。

お問合せ／環境リサイクル支援部環境課環境政策係
電話／03-3578-2487
麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話／03-5114-8802



落書き消去を支援します！

落書きは、街の美観を損ねるだけでなく、住民や通行人が不安を感じ、犯罪の誘発にもつながります。快適に、安心して過ごせるまちを守るため、落書きをさせないまちづくりに取り組みます。

対象となる落書き 区内の建物等の公衆の目に触れる場所に、管理者の許可なく書かれたもの

申請ができる人・団体 ①落書きされた建物等の所有者または管理者等
②町会・自治会等地域の生活安全・環境美化活動を行う団体

支援方法 ①落書き消去剤、ウエス等の貸与・支給
②上記①では消去できない場合は、専門業者に委託して塗装による落書き消去

費用 無料

申込窓口 各地区総合支所協働推進課または防災課生活安全推進担当
※事前に生活安全推進担当にご相談ください。

お問合せ／防災危機管理室防災課
生活安全推進担当
電話／03-3578-2272



麻布地区地域事業「麻布未来写真館」 パネル展を開催しています

麻布地区総合支所では、麻布のまちの変化を保存する取り組みとして、地区内の企業や学校等の協力の下、区民とともに麻布の昔の写真収集やまち歩きを行い、パネル展開催の準備を進めてきました。

このたび、今と昔の比較写真等のパネル展を、区内各施設で開催します(表参照)。ぜひご覧ください。

	とき	ところ
パネル展	3月26日(月)まで 午前9時から午後7時 (日曜、祝日を除く) ※最終日は午後3時まで	東洋英和女学院本部大学院棟1階学院資料・村岡花子文庫展示コーナー (六本木5丁目14番40号)
	3月28日(水)まで 午前9時から午後8時 (日曜、祝日は午後5時まで)	ありすいきいきプラザ 1階展示・読書コーナー

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当
電話／03-5114-8812

南山ジャズバンド 入場無料 第9回「スプリングコンサート」開催します

日時 平成30年3月10日(土) 開場／13:30 開演／14:00 (16:30 終了予定)

会場 麻布区民センターホール

出演 南山小学校 南山ジャズバンド 麻布ミュージックJOY バンド
六本木中学校 音楽部

主催 港区立南山小学校 南山ジャズバンド

お問合せ／090-2216-8822 (片山)

麻布地区地域サロン事業 “ちょこっと立ち寄りカフェ”に 来てみませんか

麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。

どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しんでいただけます。

毎月、麻布地区のいきいきプラザ4館で開催しています。ぜひ、お近くの会場にちょこっと立ち寄ってみてください。地域のボランティアスタッフもみなさんのお越しをお待ちしております。

お問合せ／麻布地区総合支所
区民課保健福祉係
電話／03-5114-8822

会場及び内容(予定)

◆飯倉いきいきプラザ 東麻布2-16-11

4月4日(水) アコーディオン演奏と春の歌
5月2日(水) こいのぼり作り
6月6日(水) 三味線

◆西麻布いきいきプラザ 西麻布2-13-3

4月19日(木) 春を迎えて～ゲームや歌で楽しもう～
5月17日(木) コサージュ作り
6月21日(木) 麻布を知る

◆ありすいきいきプラザ 南麻布4-6-7

4月12日(木) 春のパーティ
～改めましての顔合わせ～
5月10日(木) アロマスプレーづくり
6月14日(木) あじさいコンサート

◆南麻布いきいきプラザ 南麻布1-5-26

4月25日(水) リズムダンス
5月23日(水) 銭太鼓
6月27日(水) 歴史を語るⅢ

都税事務所からのお知らせ

自動車の移転手続・廃車手続はお済みですか？

自動車税は、毎年4月1日現在、自動車検査証(車検証)に記載されている所有者(割賦販売の場合は使用者)の方に課税されます。自動車を譲渡したときは移転登録、廃車したときは抹消登録の手続きが必要です。管轄の運輸支局又は自動車検査登録事務所で手続きをお済ませください。

※平成30年3月30日(金)までに手続きをお済ませください。

お問合せ／東京都自動車税コールセンター 電話／03-3525-4066

自動車税住所変更届の電子申請をご利用ください

引越をしたときは、管轄の運輸支局又は自動車検査登録事務所で自動車の変更登録の手続きが必要です。手続きが遅れますと、自動車税の納税通知書が届かないなどのトラブルの原因となります。やむを得ず手続きが遅れる場合は、電子申請や電話により、納税通知書の新しい送付先住所をお知らせください。

お問合せ／東京都自動車税コールセンター 電話／03-3525-4066

4月から固定資産税における土地・家屋の価格などがご覧になれます(23区内)

対象 平成30年1月1日現在、23区内に土地・家屋を所有する納税者

内容 所有資産が所在する区で課税されている土地・家屋の価格など(縦覧帳簿)

期間 4月2日(月)から7月2日(月)まで(土・日・休日を除く)

時間 9時～17時

場所 土地・家屋が所在する区にある都税事務所

納税通知書は6月1日(金)に発送予定です。詳細は、主税局HPまたは下記問合先へ
お問合せ／港区にある物件について 港都税事務所 電話／03-5549-3800(代表)

港区麻布地区総合支所だより

AZABU YURU SPORTS UNITED

麻布ゆるスポーツユナイテッド

親子連れ、お友達同士、おひとりさまのご参加大歓迎！

「国際交流」をテーマに年齢、性別、国籍を問わず参加できるスポーツイベントです。スポーツが苦手な人も得意な人も、老若男女誰もがゆるく楽しむことができる「ゆるスポーツ」を体験してみませんか？

詳しくは

OX SPACE

フライングエッグ

アワアワ！せんたくテニス

くつしたまいれ

ステンレスタンブラーもしくはブランケットをプレゼント！

●記念品は数に限りがございます

その他幼児向けのゆるスポーツもございます。ぜひご参加ください！

参加費 無料!!

イベント詳細

平成30年3月17日(土) 午前10時～12時

※雨天時順延 3月18日(日) 午前10時～12時

会場 港区立東町小学校 (港区南麻布1-8-11)

対象 どなたでも 当日、直接会場にお越しください！

★英語通訳者が常駐します。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話／03-5114-8812

【注意事項】

- 運動しやすい服装でお越しください。
- 各競技には、対象年齢が設けられます。
- チーム競技は、お待ちいただく場合がございます。
- 貴重品等の盗難・紛失は責任を負いかねます。各自での管理をお願いします。

仙台坂下(ちいばす) 仙台坂

地下鉄 麻布十番駅

麻布山入口

二ノ橋

南麻布いきいきプラザ

東町小学校

首都高速2号線

至一ノ橋

至古川橋

区民参画組織「麻布を語る会 麻布地区政策分科会」メンバー募集！

「麻布を語る会 麻布地区政策分科会」は、公募により参加する区民の方々とともに、麻布地区の魅力を高め、地域の課題を一緒に考え、より住みやすいまちにするための活動を行っています。

平成30年度は、行政の仕組みなどを学ぶ講演会や見直しを行った港区基本計画・麻布地区版計画書の内容等を学んでいただくとともに、区民の方から意見をお聞きます。

「区(麻布地区)では何をやっているのだろうか？」という疑問をお持ちの方、「もっと区(麻布地区)の仕組みが知りたい！」という方は、ぜひご参加ください。

対 象 18歳以上の麻布地区に在住・在勤・在学又は麻布地区のために活動したい方で、継続して参加できる人

開催日程

プレ分科会	平成30年4月24日(火)
第1回	平成30年5月23日(水)
第2回	平成30年7月19日(木)
第3回	平成30年9月4日(火)
第4回	平成30年11月14日(水)
第5回	平成31年2月7日(木)

※時間は各回とも18時30分～20時

場 所 麻布地区総合支所 会議室 (港区六本木5-16-45)

人 数 25名程度(応募者多数の場合は抽選)

申込期限 3月26日(月・必着)

申込方法 港区ホームページの応募フォームからお申込みください。郵送又はファックスでのお申込みを希望する方はお問合せください。

【注意事項】

- 国会議員、地方公共団体の議会の議員及びこれに準ずる職にある者、港区職員は応募できません。
- 交通費、報酬のお支払いはありません。
- 分科会の進行及び資料は日本語となります。
- 区から勤務先等へ、分科会への参加協力依頼が必要な方は、事前にお申出ください。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話／03-5114-8812 FAX／03-3583-3782

昨年度の分科会の様子

買い物するなら地元の商店街で

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください

住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電 話／03-5114-8812 ●FAX／03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからご覧になれます。

「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 田中亜紀
Sub Chief 高柳由紀子
Staff 石川味季
出石供子
大澤佳枝
おおばまりか
大村公美子
加生武秀
加生美佐保
小池澄枝
田中康寛

中嶋 恵
西森瑞穂
畑中みな子
堀内明子
森 明
山下良蔵
米沢恵美

編集後記

麻布は本当に話題が尽きない街です。「(話題が)もう無いだろう!」ということがありません。編集委員をしていると、自分の知らない事の多さに驚きます。同時に「新たな発見」に感動します。何気なく行き交う先々に思わぬエピソードが眠っている…。時には運命すら感じるような発見が。信じていただけないかもしれませんが、本当です。麻布は話題が尽きない大きな、とてつもなく大きな街です！ (田中康寛)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休／午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電 話／03-5472-3710 FAX／03-5777-8752

お問合せフォーム／<https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. – 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;
Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>